第75回指定都市学校保健協議会　　出向報告

第4分科会「地域保健」

提言1

横浜市内におけるCO２モニターの管理と活用

横浜市立新羽中学校・箕輪小学校　学校薬剤師　和田　野歩

全横浜市立学校では令和5年1月から「空気の見える化プロジェクト」が開始され、CO2モニターが設置されている。モニターの内4台はインターネット接続型で、CO2濃度などのデータをWEB上に公表している。「いつでも」「どこでも」「誰でも」リアルタイムで学校の空気の状況を確認することができることで児童生徒のみならず教職員、家庭の換気への意識向上につながった。

提言2

学校保健委員会を中心とした学校保健活動の実践

～健康づくりで学校・家庭・地域をつなぐ～

熊本市立秋津小学校　養護教諭　松川　亜未

本校は小規模校で全員がお互いを知っているほど仲のよい子どもたちであるが、クラス替えもなく人間関係や考えが固定化しやすく意見交流や外部コミュニティでの関わりを持つことを苦手とする傾向が見られる。そこで学校保健員会を中心としてオンラインも活用することで、地域の人や近隣の学校の子どもたちとつながりを持つことができ視野が広がったり新しい意見に触れたりすることができた。

提言3

生きる力を育む委員会活動

～学校保健委員会・生徒保健委員会を通して～

相模原市立中沢中学校　養護教諭　菊地　麻希

相模原市立若草中学校　養護教諭　土橋　麻貴

相模原市立中学校教育研究会学校保健研究部会では健康教育・健康管理を推進するために継続的な研究を行っている。令和元年度から令和4年度にかけて市内中学校10校の養護教諭と「『生きる力』の育成をテーマに共同研究が行われた。

提言4

自分の健康に関心をもち、主体的に健康活動を実践できる子どもの育成

～心と体の体力アップの実践を通して～

岡山市立山南学園　養護教諭　谷川　憂真

運動経験不足により体の使い方が未熟なために、これまでにはなかったけがにつながるケースが近年見受けられる。運動が苦手な児童も運動が好きになり、運動や遊びに対して主体的に取り組むことができるように「運動だんごカードの作成・実施」と「体力・体温に関する健康教育」により自分の体力や健康に関心をもち、運動の習慣化や健康な生活への意識向上をねらった。

提言5

子どもたちの「安心」を中学校区で連携して守る

札幌市立二条小学校　教諭　中塚　宗太

北海道の不登校児童生徒数は人口1000人当たりでみると小学校で16.3人であるが中学校になると70.3人にまで増える。中学校に進学していく子どもたちが少しでもスムーズに中学校に馴染んでいけるようにするための手立てとして、中学生が出身小学校に来校して小学生と交流する小中連携、札幌市教育研究推進事業による小中学校の教職員の交流、児童会と生徒会の連携が報告された。

（堀　稔　記）